

問 自転車活用推進計画策定は

答 29年度中に取組み策定する



津滝俊幸議員

【地域振興政策について】

問 自転車活用計画策定の構成員や時期などの方向性は。

村長 計画策定の構成員、時期については決めていません。方針としては観光局や関係者と協議のうえ、観光、スポーツ、オリンピックムーブメント、健康環境等様々な面から自転車の活用について取り組んでいきます。

問 無電柱化の推進計画の進捗状況は。

村長 平成27年度に白馬駅前国道148号、白馬ガラス交差点から役場入口交差点までの480mと、県道白馬岳の駅前から六拾荷体育館交差点まで

の700mの2区間を長野県無電柱化計画に加えてもらいました。今年度は無電柱化に限らず白馬駅周辺を通年型、広域型及び長期滞在型の拠点として整備してもらったため、白馬駅周辺整備検討会を設置し現在まで4回の検討会を開催。地域戦略推進型公共事業として取り組んでいく事とし、大町建設事務所において、移設コストなどの調査業務から技術的及び費用の検討を進めているところですが、また、サンサンパーク周辺や飯田から八方までのオリンピック道路、新田区内の桜並木通りについて、引き続き電線の地中化を、長野県電線地中化協議会へ要望してまいります。

の早期構築「広範囲なインバウンドプロモーション」異常気象を想定した事前の対策計画「除雪事業者への契約方法の見直し」などの要望を踏まえ、今後も同様の事態が起こりうる観点から具体的対策を検討します。

問 平成29年度における地方創生交付金の具体的方針について

村長 現在は30年度までの継続事業の「北アルプスエリア山岳観光地構築事業」で、事業費は1500万円、村負担分500万円の二分の一250万円が内示されました。各課へは地方創生の事業へ取り組むよう指示していますが、多額な事業費を要する事業については、補助残分などの財源が課題と考えています。

問 2年連続の雪不足による寡雪対策について、時限的な対策では無く、しっかりと地域経済対策を立てるべきでは。

村長 関係者からの意見交換会や議会からの「通年観光

問 地域振興策の財源確保にについては、職員に対して度々、国や

県の動向に注視し特定財源を勝ち取るよう指示しています。特に補正予算には、経済対策として投資的事業の補助金が多く含まれており、アンテナを高く張り対応します。また、民間資金や財団法人の助成金の活用、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などの自主財源確保に努めます。

問 庁内での政策の策定や推進体制は。また、事業推進にあたっての住民の役割は。

村長 政策形成能力を高めるために、「一人ひとりが、仕事や身近な物事に問題意識を持つこと」を職員に指導しています。また、人事評価制度を活用し職員の能力開発を効果的に進めます。住民には主体的に事業に参加していただき、地域社会を創り出す「住民参画」や、行政と対等な立場で責任を果たし、連携協力して課題に取り組む「協働」が重要と考えます。



「サイクリストの街・白馬へ」